2020年５月号　　５月15日（金）発行

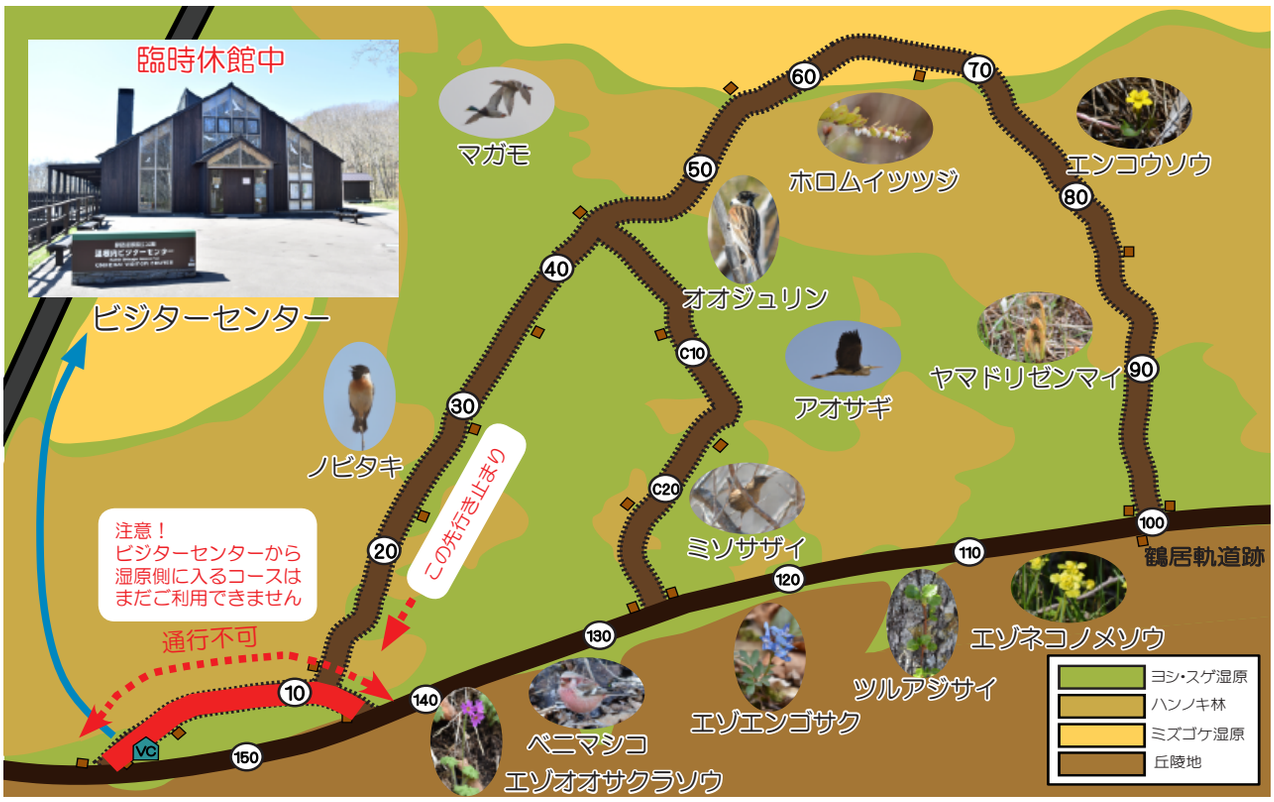
釧路湿原国立公園　　温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 284

動き始めるこの時期になると…

野鳥の動きが活発になり、草花が芽吹き始めるこの時期に思うことがあります。「今年はどんな傾向が見られるかな？」と。同じように見える自然の巡りも、年や種によって旺盛だったり妙に元気がなかったり。私たちにはわからない、『示し合わせ』のようなサイクルが自然にはあるのでしょうか。特殊なのはむしろ人間の方かも…？

☆☆☆温根内ビジターセンター周辺の自然情報☆☆☆



～温根内ビジターセンター周辺の自然～

【エンコウソウ】
キンポウゲ科　猿猴草
湿原に咲くおなじみの花で、至近距離で観察できます。有名なエゾノリュウキンカの変種で、茎が地を這うように伸びます。

【ホロムイツツジ】
ツツジ科　幌向躑躅
壺状の花を下向きに咲かせ、ミズゴケ湿原の春を彩ります。可憐な花ですがこう見えても樹木の一種。秋になると葉が紅葉します。

【ヤマドリゼンマイ】
ゼンマイ科　山鳥薇
湿地や山中にも見られるゼンマイの仲間。ハンノキ林内などで群生し、夏から秋にかけて葉（栄養葉）を大きく広げます。

【クサソテツ】
コウヤワラビ科　草蘇鉄
こちらも、春の芽吹きの力強さを感じさせるシダ植物です。夏に遅れて胞子をつける胞子葉が伸びてきます。別名コゴミ。

【エゾオオサクラソウ】
サクラソウ科　蝦夷大桜草
鶴居軌道沿いの丘側の斜面などをよく見ると咲いています。オオサクラソウの変種に当たり、茎に毛が密集するのが特徴です。

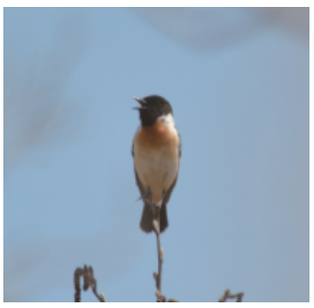
【エゾネコノメソウ】
ユキノシタ科　蝦夷猫眼草
新緑の地面でひときわ目を引く植物です。黄色く見えるのは「苞」と呼ばれます。周りには同じ科のよく似た花も咲いています。

○表紙の写真 上：湿原に佇むアオサギ　中右：クジャクチョウ　中左：エゾエンゴサク　下：ヒガラ

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

【ベニマシコ】　夏鳥（一部越冬）アトリ科　紅猿子

風の強い日、地面でしきりに餌を探していました。オスは綺麗な赤色をしていますが、枯葉に紛れると意外と見つけにくいです。



【ノビタキ】　夏鳥

ヒタキ科　野鶲

今年もヨシ原で心地よい囀りを聞かせてくれています。頭部がまだ黒い夏羽に変わりきっていないオスも見られます。

【マガモ】　夏鳥

カモ科　真鴨

水面の見える湿地から羽音を立てて飛び立っていきました。本種は以前にも増して、見る機会が増えたように思います。

【ミソサザイ】　留鳥

ミソサザイ科　鷦鷯

急に木道の下から飛び出してきました。お互いびっくりしたところで偶然撮れた1枚。国内の野鳥では最小クラスの種です。

〇温根内探勝木道周辺で観察された花（4月15日～5月14日）※和名は五十音順　＊外来種

■アオイスミレ■アキタブキ■イヌコリヤナギ■ウラホロイチゲ■エゾエンゴサク■エゾオオサクラソウ■エゾネコノメソウ■エゾノクサイチゴ■エゾヒメアマナ■エゾヤマザクラ■エンコウソウ■オオバナノエンレイソウ■カブスゲ■ガンコウラン■キタコブシ■キタミフクジュソウ■キジムシロ■キヌヤナギ■クロミノウグイスカグラ■ケヤマハンノキ■サギスゲ■セイヨウタンポポ＊■タガネソウ■チシマネコノメソウ■ツボスミレ■ナガバヤナギ■ナズナ■ネコノメソウ■バッコヤナギ■ハリスゲ■ハンノキ■ヒメイチゲ■ヒメタガラシ＊■ホロムイツツジ■ミズバショウ■ミツバツチグリ■ミミナグサ■ミヤマスミレ■ヤチダモ■ヤチヤナギ■レンプクソウ■ワタスゲ

〇温根内探勝木道周辺で観察された鳥（4月15日～5月14日）和名は日本鳥類目録第7版の順

■ヒシクイ■マガン■オオハクチョウ■マガモ■キジバト（4/29初認）■アオサギ■タンチョウ■クイナ（4/29初認）■ツツドリ（5/14初認）■ヤマシギ■オオジシギ（4/29初認）■タシギ（5/3初認）■トビ■オジロワシ■チュウヒ■ハイタカ■ノスリ■カワセミ■アリスイ（4/29初認）■コゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■ヤマゲラ■モズ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■ヒガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■ウグイス■ヤブサメ（4/29初認）■エナガ■エゾムシクイ（4/15初認）■センダイムシクイ（5/3初認）■メジロ（5/4初認）■ゴジュウカラ■キバシリ■ミソサザイ■クロツグミ（4/22初認）■アカハラ（4/30初認）■ノビタキ（4/16初認）■キビタキ（5/7初認）■オオルリ（5/3初認）■ハクセキレイ■ビンズイ（4/29初認）■タヒバリ■カワラヒワ■マヒワ■ベニマシコ■ウソ■カシラダカ■アオジ（4/25初認）■クロジ（5/11初認）■オオジュリン

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

※　5月10日、24日それぞれに予定していた「アイヌの自然観～植物編～」「早朝バードウォッチング」は新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、中止といたしました。

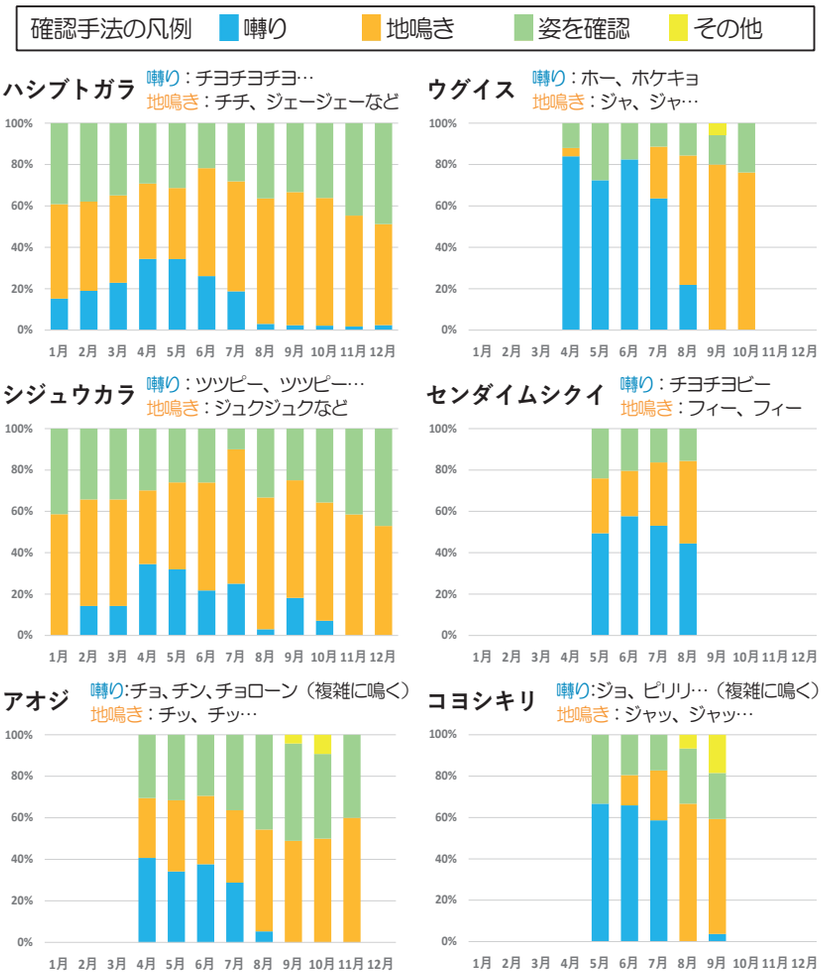
☆☆☆　ビジターセンター臨時休館のお知らせ　☆☆☆

新型コロナウィルス感染拡大防止のため、当ビジターセンターは当面の間、臨時休館といたします。遊歩道はご利用になれます。皆様のご協力を引き続き、お願いいたします。

☆☆☆　トピック　自然の情報を可視化してみる③ ～野鳥編Ⅱ～　☆☆☆

年間を通して野鳥を観察していると、同じ種でも季節ごとに鳴声が違うことにお気づきでしょうか？繁殖の時期にその繁殖行動に関係して、おもにオスの発する鳴声を「囀（さえず）り」と呼ぶ一方、仲間と呼び合ったりする時などに発する比較的単純な鳴声は「地鳴（じな）き」といいます。季節と種によってこれらの鳴声がどう変わっていくのでしょうか？そこで今回は、囀りと地鳴きが明瞭に区別できる種に絞って集計してみました。次のページの棒グラフは、野鳥の種ごとに横軸に月を取って、囀り（青）・地鳴き（オレンジ）・姿を確認（緑）・その他（黄）の4つの確認手

法の比率を表しています。
まず、留鳥のハシブトガラ、シジュウカラを見てみましょう。両種とも冬の間から囀り始めていますね。そして８月頃に繁殖行動がひと段落するのか、囀りの確認がガクンと減り、地鳴きがメインになります。ただ、なぜかシジュウカラは９月にもう１回、囀りが確認できる頻度が上がります。夏鳥はどうでしょう。やはり、４月～７月頃にかけて囀りが多く、８月頃を境に地鳴きがメインになりますが、種ごとにかなり違いがありますね。ウグイスやコヨシキリは鳴声は春からほぼ囀っていますが、アオジ、センダイムシクイは同時に地鳴きも割と発しています。またセンダイムシクイは８月になっても囀りの比率があまり下がらず、そのまま渡って行ってしまうようです。ちなみに「その他」とした鳴声は、囀りに近い、通称「ぐぜり」といわれる声です。アオジなどはこのぐぜりが秋の最終盤に聞かれることがあります。来季に向けての囀りの練習なのかもしれません。
どうでしょうか。鳥の鳴声の移り変わりに少し耳を傾けてみてください。何か発見があるかもしれませんよ！（藤原伸也）



※2017年～2019年までの約３年間の観察記録をデータとして使用。

☆☆☆☆イベントのご案内（６月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

新型コロナウィルスの感染状況により行事自体が中止になる可能性があります。事前に各施設へご確認ください。

○温根内ビジターセンター　⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪初夏の花を見に行こう

〔日時〕６月７日（日）10：00～12：00　〔定員〕 15名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕無料　〔場所〕温根内ビジターセンター
釧路湿原はいよいよ花のシーズン到来です。初夏を代表する湿原の花々を観察しましょう。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪新緑の湿原 野鳥観察会

〔日時〕６月６日（土）10：00～12：00　〔定員〕 15名（小学生は保護者同伴）
〔参加費〕無料　〔集合場所〕シラルトロ自然情報館駐車場

～距離をとって歩こう～

今はお互いに距離をとって歩きましょう。ご協力をお願いいたします。

月刊　温根内通信　No.284
発行：釧路湿原国立公園　温根内ビジターセンター
〒085-1145　北海道阿寒郡鶴居村字温根内
Tel：0154-65-2323　Fax：0154-65-2185
E-mail：ovc@hokkai.or.jp
ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/
Facebook：温根内ビジターセンター　フェイスブック

ビジターセンターは新型コロナウィルス感染対策のため、当面の期間、臨時休館しております。ご了承ください。